



## ワークショップ

# 「山里社会における生業の多様化と個性の時代 —近世・近代の下伊那地域—」



「和田村絵図」(佐藤光弘家文書)

日時：12月3日（土）10：00～16：30

会場：飯田市上郷公民館 講堂

主催：JSPS 科学研究費助成事業基盤研究(A)「南信濃  
山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に  
関する基盤的研究」（代表 吉田ゆり子）

共催：飯田市歴史研究所

### ▽ 報告1：樋口貴彦(東洋大学)

「遠山谷の山地性集落の集落景観 —焼畑地と家屋の関係について—」

コメント：鈴木利友(武庫川女子大学)

### ▽ 報告2：角和裕子(世田谷区立郷土資料館)

「下伊那郡清内路村と周辺地域における櫛生産」

コメント：町田哲(鳴門教育大学)

### ▽ 報告3：太田仙一(飯田市歴史研究所)

「王子製紙による山林開発と遠山地域社会 —地域経済への影響に着目して—」

コメント：小島庸平(東京大学)

### ▽ 報告4：吉田ゆり子(東京外国語大学)

「遠山谷の集落と生業 —近世和田宿を中心として—」

コメント：森下徹(山口大学)

共同研究「南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究」(JSPS 科学研究費助成事業基盤研究(A)課題番号20H00025)は、国土の7割近くを占める森林資源が、日本社会の構造的変化に多大な影響を与えてきた事実を、近世・近代の南信濃「伊奈山」をめぐる政治権力・山里の社会集団・都市商人・産業資本との諸関係、山と里との労働力と物資の循環、環境変化・災害、文化的景観の形成に注目しながら総合的に研究し、「林制史」「林業史」には止まらない社会構造史研究を進め、今日の文化的景観が形成されるに至った地域固有の歴史的過程を明らかにすることを目的としておこなっています。

今回のワークショップでは、近世・近代の下伊那地域で営まれた生業とその担い手である社会集団に焦点を当て、遠山谷や清内路の集落景観を生んだ自然や人々の営みを歴史的に検討し、今日の下伊那地域の特性が形成された社会的背景について議論します。

参加方法：①会場での参加（定員50人）、②オンラインでの参加

申込方法：12月1日（木）までに電話、FAX、メールのいずれかで、参加方法と電話番号をお知らせください。

参加は無料です。

※専用フォームからお申込みいただけます。

[<https://forms.gle/tyV8RAWnsGRcsfWW9>]

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、変更が生じる場合があります。



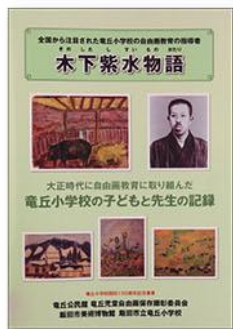
# 飯田歴研賞2022 受賞者コメント

飯田市歴史研究所では、前年度に発表された飯田・下伊那の地域史研究に関する優れた作品に対し、飯田歴研賞をお贈りしています。2022年度は4つの作品が受賞されました。

9月に開催された飯田市地域史研究集会において授賞式を行う予定でしたが、研究集会がオンライン開催となったため、式は延期となりました。日程は検討中です。受賞者のみなさまからのコメントを紹介します。

## ● 著作賞 ●

竜丘公民館 竜丘児童自由画保存顕彰委員会・飯田市立竜丘小学校・飯田市美術博物館編『木下紫水物語 全国から注目された竜丘小学校の自由画教育の指導者』（2022年3月）



このたびは飯田歴研賞をいただき、大変光栄に思います。

今回発刊しました『木下紫水物語』ですが、大正時代に竜丘小学校でおこなわれ全国からも注目された「自由画教育」の指導者である木下紫水の物語です。明治時代から大正時代の初めにかけての図画学習は、教科書のお手本をまねて描く「臨画」が中心でした。しかし、竜丘小学校の先生たちは、子どもの自由な表現を尊重した図画学習が大切と考え「自由画教育」を始めたのです。その時に描かれた絵が300点余、現在竜丘小学校に保存されています。『木下紫水物語』は、自由画教育の生まれた背景、自由画教育の本質等について木下紫水の生涯の歩みに沿って、小学生の子どもたち向けに「童話」として作成しました。また、この本の中には子どもたちが描いた「自由画」を30点余掲載しています。今後も竜丘児童自由画保存顕彰委員会を中心に、自由画の保存顕彰活動に取り組んで参りたいと思っています。

## ● 著作賞 ●

本島和人著『満洲移民・青少年義勇軍の研究 一長野県下の国策遂行一』（吉川弘文館、2021年9月）



歴研賞・著作賞に選出していただき、ありがとうございます。「満洲移民」は、若い頃から気掛かりとなっていたテーマです。満蒙開拓を語りつぐ会に加わり、歴史研究所に関わり早や20年、気がつけば老境です。体験者の皆さん、地元の先輩、ゼミの仲間、下伊那を訪れる研究者、史料と情報を提供して下さい下さった皆さん、多くの方々との出会いに導かれての歩みでした。

「なぜ、下伊那が…」との問いは、父祖たちが生きたあの時代に向きあうことであり、心中に漂う憤りにも似た思いを昇華していくプロセスのなかにあります。本書では人びとの動きと残された言葉を通して下伊那の満洲移民の全体像に迫ることを試みました。しかしまだまだ課題は少なくないとの思いがあります。諸氏の学恩に感謝しつつ、史料に向きあう日々をもう少し過ごしていくことができればと考えています。

## ● 論文賞 ●

清水迪夫著「歌誌『夕樺』と下伊那青年運動」（1）～（6）（『伊那』1096～1116号）



拙論は、「（歌誌）『夕樺』の活動の中で、現実を見つめること、貧しさを貧しさとして見る事ができるような青年が育った。…（戦前の）下伊那の自主的な青年運動を推進していく中心的な役割を果たした青年のほとんどが『夕樺』の同人または会友であった」（『下伊那青年運動史』）過程を実証的にみたものです。

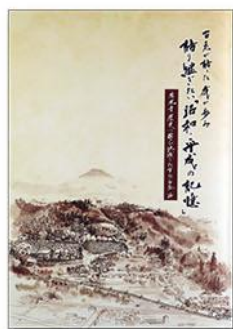
大正デモクラシー期の民主的進歩的風潮は、下伊那の青年たちの社会政治に対する意識・関心を高めていきました。短歌は喜怒哀楽の感情と同時に、強い社会意識・関心がないと詠めないのではないかと思います。

先日次のような短歌が『朝日新聞』に掲載されていました。「生活費の赤字が続き穏やかな妻がプーチンの壺行をなじる」（守岡和之、2022年8月7日）「目的ができた白寿の祖母の言うプーチンの死を見るまで生きると」（米谷茂、2022年8月7日）「ゼレンスキー氏がユニクロのCMに出るようなそんな日が早く来てほしい」（西村晃、2022年8月14日）

たかが短歌、されど短歌。受賞感激です。もうすこし頑張りたい。

## ● 奨励賞 ●

座光寺 歴史に学び地域をたずねる会編『古老が語った我が歩み語り継ぎたい「昭和・平成の記憶」』（2021年8月）



当会は平成22年に発足致しました。聞き取りは平成23年頃から始めましたが、中々思うように進まず、平成26年の3月から、歴史研究所のご指導を頂きながら、終戦67年になってしまうので、今聞いておかないと戦争の事実が聞けなくなってしまうという事で本格的に取り組み始めました。聞き取りを始めたのが遅かったのか、外地へ行った方からの聞き取りは少数しか出来ず後悔致しましたが、しかし内地に居られた方から戦争に関する貴重な聞き取りをする事が出来ました。その後は聞き取りの内容を終戦からの農業の変遷についてのお話や、地域振興等に移して、多くの方々から貴重なお話の聞き取りが出来ました。昨年の8月に書籍で発行する事ができました事を関係各位に感謝致します。聞き取りは昨年の7月から再開致しました。今回の受賞を励みに、今後皆さんのご協力を得て聞き取りを続けたい。今回は飯田歴研賞を頂き感謝し、御礼申し上げます。

## 日記を読む

前澤 健（高森北小学校／歴史研究所調査研究員）

古文書の調査をしたり、所蔵機関の目録のページをめくったりしていると、年貢や訴願関係の史料と共に「日記」が残っていることがあります。日記というとプライベートな内容と思われがちですが、江戸時代の村役人の日記と題された記録には、私的なものだけでなく公的な内容など、様々なものが書かれています。



伊藤治左衛門日記（病犬の記述）

私が、日記に関心を持ったのは、『高森町史』で引用されている中村家の日記を読んだことがきっかけでした。当時、調べていた立石柿（串柿）の生産に関する豊かな記述に驚いたことを今も覚えています。その後、出会ったのが「伊藤治左衛門日記」（仮称）です。伊藤治左衛門（1685?～1750）は、雲雀沢村の庄屋でした。彼の残した日記は、正徳元（1711）年から寛延3（1750）年までの約40年に及びます。その内容は、庄屋の仕事、村や周辺のできごと、災害、天文現象など、豊かなものです。

その日記を解読していく中で、心に留まったことがいくつかありました。一例をあげると、元文元（1736）年から翌2年にかけて、治左衛門は病犬に関係することを何回も記述しています。よく調べてみると、これは日本で狂犬病が広がっていく一過程でした。さらに広げてみると17世紀後半以降、狂犬病は世界中へ広がっていく過程にありました。こうしてみると伊那郡の小さな村の記録が、実は世界史の一部であったことがわかります。こんな点も日記（記録）を読む醍醐味の一つです。

## 調査速報 古瀬今村家文書と今村文庫

歴史研究所では、2017年3月より飯田市座光寺の古瀬今村家文書の調査に取り組んでいます。今村家は江戸時代後半、18世紀末より座光寺村の庄屋を務めた家です。この史料群については、すでに所蔵者の故今村善興氏（1927～2011年）によって整理され、『座光寺文書目録』第1集（1978年）でも、近世～近代の文書約2,000点が紹介されています。今回の調査では、目録未掲載のものを含めて再調査を行い、これまでに4,000点余の文書を把握しました（現在も継続中）。庄屋として作成した村方史料、今村家が属した古瀬組(※)の史料、今村家の家や個人の史料などが重層する古瀬今村家文書の全体像が浮き彫りになりつつあります。

ところで、今村善興氏は、小・中学校の教員を務めながら、考古学の専門家として飯田・下伊那の遺跡発掘調査に広く携わり、同時に自宅の史料やその他の史料を博搜して座光寺の地域史研究に取り組んだ研究者でもありました。この今村氏自身の史料は、今村文庫として、座光寺の研究団体「歴史に学び地域をたずねる会」によって整理が行われました。それらは、座光寺に関する史料の写真や筆耕、研究ノートやメモ、論文の抜き刷りや書籍など約600点からなり、座光寺研究を中心とした研究者アーカイブズといえるものです。

こうして史料群（古瀬今村家文書）と、その分析に取り組んだ研究者アーカイブズ（今村文庫）、その両方が保存されることになったわけです。座光寺の歴史のみならず、それを地元の研究者がどう明らかにしようとしていたのか、その分析がこれからの課題になります。

※江戸時代の座光寺村は村高が2,000石を超え、家数も幕末には300軒近くに及ぶ巨村であったため、村内は20余りの組に分かれていました。そのひとつに古瀬組があります。



座光寺の麻績史料館で保管されている今村文庫

羽田真也（歴史研究所研究員）

## 明治維新と旧体制の廃棄

講師 いけだ ゆうた 池田 勇太 さん (山口大学人文学部准教授)

日時

11月5日(土)

第1講 13:30~15:00 王政復古と領主制の廃棄  
第2講 15:20~16:50 明治初年藩政改革の論点

11月6日(日)

第3講 10:00~11:30 武家支配の崩落現象  
第4講 13:00~14:30 廃藩置県と開化論

会場 伊賀良公民館 1階講堂

資料代 500円 ※高校生以下無料

申込み

①会場での受講(定員50名) ②ご自宅等でのオンライン受講 のどちらかでご参加いただけます。  
会場は11月2日(水)、オンラインは10月25日(火)までに電話、FAX、メールのいずれかで受講場所と電話番号をお知らせください。オンライン受講は、郵便番号とご住所もお知らせください。

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。

講師より

明治維新は近代史上重要な変革といえますが、日本近世の領主制や身分制度が廃棄され新しい政治社会体制が構築されていく経緯やその意義については、研究者間でも統一的な見解が得られていません。

この講義では、江戸時代の政治社会体制が変化する転換点となった慶応3年(1867)の大政奉還・王政復古から明治4年(1871)の廃藩置県前後の時期を取り上げ、旧体制の廃棄について論じます。なぜ大名たちは領主の座から降りてしまったのでしょうか。どのようにして武士たちが支配する体制が終わったのでしょうか。また当事者たちはどのように考えていたのでしょうか。飯田・下伊那の事例もまじえつつ、論じてみたいと思います。

## 地域史講座「南信濃の木材利用を考える ―王子製紙以降の山里―

11月12日(土) 14:00~16:00 南信濃公民館

御料林として江戸幕府に管理された近世遠山谷の山林利用は、近代の製紙産業による開発を経て衰退し、現在は静かに次の活用を待っているかのように見えます。

この講座では大正期の王子製紙撤退直前に残された記録に関する太田研究員の報告から、遠山谷の山林と山里の姿を振り返りながら、現在、地域の木造施設の設計に携わる暮らしと建築社の須永次郎氏や山林管理に携わる(株)金井山素材の金井溪一郎氏の視点を交えて、今後の山里の姿や木材利用の可能性を考えます。

講師：樋口貴彦(歴史研究所調査研究員)

報告：太田仙一(歴史研究所研究員)

須永次郎さん(暮らしと建築社)

コメント：金井溪一郎さん(株)金井山素材

●定員：40名(オンライン参加可)

●申込方法：11月10日(木)までに、電話・FAX・メールのいずれかで受講場所と電話番号をお知らせください。参加は無料です。

受講生募集!

歴研ゼミ&amp;ワークショップ10月・11月の予定

会場：歴史研究所 研修室

## 建築史ゼミ

担当：福村任生(研究員)  
10月21日/11月18日  
(第3金曜日) 19:00~21:00

## 近世史ゼミ

担当：羽田真也(研究員)  
10月12日・26日/11月9日  
(第2・第4水曜日) 18:30~20:30  
※11月23日は祝日の為休講

## 近現代史ゼミ

担当：田中雅孝(特任研究員)  
10月22日/11月26日  
(第4土曜日) 10:00~11:40  
※今年度から月1回となります

## 思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場  
10月5日・19日/11月2日・16日  
(第1・第3水曜日) 19:00~21:00

## 満洲移民研究ゼミ

担当：本島和人(調査研究員)  
齊藤俊江(調査研究員)  
第129回 10月1日/第130回 11月5日  
(第1土曜日) 10:00~11:40  
※10月1日の会場は上郷公民館

## 地域史ゼミ

担当：太田仙一(研究員)  
10月14日/11月11日  
(第2金曜日) 18:30~20:30

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL:0265-53-4670

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱・咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、延期または中止、会場の変更、参加者の制限をする場合がありますのであらかじめご了承ください。開催日の1週間前に開催可否を判断します。

開所時間：午前9時~午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日  
メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: [iihr@city.iida.nagano.jp](mailto:iihr@city.iida.nagano.jp) まで